

資料館だより

企画・編集 国立ハンセン病資料館

発行 財団法人
日本科学技術振興財団

〒189-0002 東京都東村山市青葉町4-1-13

電話 042-396-2909

FAX 042-396-2981

URL <http://www.hansen-dis.jp>

春季企画展

かすかな光を求めて 療養所盲人たちの活動

平成23年度春季企画展「かすかな光を求めて」を4月23日から7月24日までの日程で開催いたします。

ハンセン病の有効な薬がなかった時代、療養所では失明した人が、全入所者の約一割を占めていました。失明は、知覚を失い、手足などに他の障がい併せ持つ多くの入所者に、さらなる絶望を与えました。「誰かの助けを借りないと何もできない」とされていた盲人たちの多くは、部屋の片隅で柱を背にし、虚無感の中で一日を過ごすしかなかったといえます。

生し、一九五五(昭和30)年には、全国組織である全国ハンセン氏病盲人連合協議会(全盲連)が結成されました。盲人の幸福をはかることを目的として、生活改善のための運動をはじめ、全患協の運動にも積極的に参与しました。国民年金獲得や不自由者看護の職員切替えの闘いでも大きな成果をあげた全盲連の活動は、今年で56年目を迎えます。

一方、文学や音楽、陶芸、将棋

戦後になり、化学療法の登場や、全国国立療養所ハンセン病患者協議会(全患協)の結成など、大きな変化が起こりました。その中で「自分たちにも自分の力で何かできることがないだろうか」と各園で盲人組織が誕



『点字松丘』発行を喜ぶ盲人たち 1957(昭和32)年頃 松丘保養園

各園盲人会機関誌



にいたるまで、さまざまな文化活動も展開し、その活躍の場は療養所の外にも広がっていききました。点字を指ではなく、知覚が唯一残った唇や舌先で読むなど、文字通り血のにじむような努力を続けた人もいました。

本展覧会では、戦前から現在に至るまで、療養所においてどのように盲人たちが生き抜いてきたのか、生活や運動、そして文化活動を中心に紹介いたします。

主には、全盲連関係資料や写真、点筆や点字盤などの点字関係資料をはじめ、各園盲人会で発行した機関誌、陶芸作品やハーモニカバンドで使用された楽器類などを展示いたします。

展示とあわせ、ハーモニカバンドの演奏や盲人会歌を聴くことのできるコーナーも設置いたします。見るだけではなく、聞くことによって本展覧会を味わっていただければ幸いです。

また、現在の療養所における盲人の方々の生活風景を収めた映像を上映いたします。不自由な中でも様々な工夫を重ねて生活されている様子をご紹介します。

本展覧会を通して、困難であっても、様々な活動に取り組む中で自分の可能性を信じ、かすかな光をもとめようとした一人一人の姿を是非、ご覧いただきたいと思います。

●関連事業

○講演会「多磨盲人会ハーモニカバンドとの思い出」

多磨盲人会ハーモニカバンドのメンバーと交流のあったタケカワユキヒデさん(ミュージシャン)をお招きし、当時の思い出をお話いただきます。

日時…6月12日(日)13:30～15:00

○朗読コンサート

療養所内の盲人の方々が生み出した文学作品を宴堂裕子さん(女優)、小池保さん(元アナウンサー)、三宅民夫さん(アナウンサー)に朗読していただき、渥美知世さんにアコーディオンを演奏していただきます。

日時…7月10日(日)13:30～15:30
※両日とも入場無料。先着順に150人まで受付。

場所…当館映像ホール

○学芸員によるギャラリートーク
日時…4月30日(土)、5月15日(日)いずれも14:00～14:30
皆さまお誘い合わせの上、ご来館ください。

高山勝介展好評裡に終了 会期中多くの人と交流

勝介さんという人がいるからこそ作品があるということ。物を生み出す喜びを感じさせてくれるのが陶芸であり、生きがいとなっているということ。陶芸には土と向き合い、全てを集中させる時間があるということ。これらを伝えるための試みとして作品だけでなく、写真や語り、動画も展示した。来館者は作品そのものを鑑賞する

した。始めに勝介さんのひとりや歩んだ道を写真と語りのパネルで知ってもらい、その上で作品を鑑賞し、最後は新作と陶芸をする真剣な姿を観るという展示構成である。

2月11日から3月6日まで、企画展「高山勝介作陶展」を当館1階ギャラリーにおいて開催した。勝介さんにとっては初の個展で、これまでの氏の歩みを知ることが出来る写真、勝介さんと妻寿美枝さんの語りを記したパネル、作品30点(展示替えを行って合計53点を展示)、作陶中の表情を写した写真、新作を作る勝介さんの動画を展示

だけでなく、勝介さんの生き様や陶芸をする姿も感じて頂けたのではないだろうか。

会期中勝介さんは毎日ギャラリーに訪れ、来館者に作品やこれまでの歩みについて直接語りかけていた。来館者の中には、勝介さんの手に直にふれ、「この手が作品を生み出しているんですね」と眼を潤ませながら話す人もいた。また勝介さんは話をした来館者に対し、感謝の気持ちとして企画展図録と絵葉書のセットを渡していた。作家本人からのプレゼントは、来館者にとっては忘れられないものになったのではないだろうか。

来館者に説明する勝介さん



高山勝介さんと寿美枝さん



話をする和やかな場面もあった。以前文化祭で勝介さんのお茶碗を購入し、電車内のポスターで本展覧会を知って来館した人は「手にしつくりきて、今でもそのお茶碗を使っています」と話をした。勝介さんは自分の作品が今でも使われていることに喜びを感じていたようである。初めて来館された方も、新作の作陶風景に見入り、勝介さんと話し込む場面があった。展示替えを楽しみにしている人もおり、何度もギャラリーに足を運んでおられた。多くの人が勝介さんと直に接することができたという点でも、意義深い展覧会となった。



詩作に没頭する塔和子さん

塔和子展を開催

「いのちの詩」塔和子の世界」展を、塔和子の会と共催する。展示は当館、付帯事業は塔和子の会が担当する。

大島青松園に暮らす塔和子さんは、詩人としての五四年間で一九冊もの詩集を生み出してきた。九九年には高見順賞を受賞。ドキュメンタリー番組や映画で取り上げられ、全国に多くのファンを持つなど、社会的な評価を得ている。

入所者の間では以前から注目され療養所生活への絶望を恐れて、多くの入所者がその直視をためらう中で、塔さんは「ひるまず、血のしたたる生の切り口を開いてみせる(79年)」と評される詩を作り続けたからだ。

患者として手に入れた塔さんの感性と思索は、詩という表現の形を得た。今回の展示が、その詩を通して塔さんの内面に触れる、入口になることを願っている。

●会期 5月21日(土)～6月26日(日)・会場 1階ギャラリー
●付帯事業 ①沢知恵ピアノ弾き語りコンサート/日時 5月28日



咲き始めたしでこぶし

(土) 1回目12時～1時、2回目3時～4時・会場 映像ホール・葉書に氏名、住所、電話番号、人数(一枚の葉書で2人まで)、希望回を明記の上事前申込必要
②映画「風の舞」上映会/日時 6月11日(土) 1時～2時・会場 映像ホール・事前申込不要
③朗読・読書会/5月29日(日) 1時～3時、6月11日(土) 2時～4時・会場 研修室・事前申込不要
※付帯事業の申込、問い合わせは、いずれも、塔和子展企画実行委員会(代表・川崎正明)まで。
〒662-0811 兵庫県西宮市仁川町6-6-12 電話090-2049-0394

東日本大震災の影響は各方面に及んでいるが、多磨全生園でも計画停電で食事や入浴時間でも変更される。観桜会、身患連交流会、緑の祭典なども中止され、被災地への義援金、支援物資も沢山寄せられている。

彼岸もすぎ梅は過ぎたが、沈丁花、木蓮、しでこぶしなどが咲き始め、4月初旬には桜も満開?

全療協結成60周年展の開催に向けて①

今年度九月末から始まる秋季企画展では、結成から六十年を迎えた全国ハンセン病療養所入所者協議会(全療協)の足跡を追う展示を計画している。

全療協は、一九五一(昭和二六)年一月に結成された。当時、各園で患者自治会が組織され、予算使途の明朗化、生活擁護、特別病室事件、プロミン獲得などをそれぞれに求めている。こうした時期を経て、一致して改善要求を行う必要が生まれてきた。その結果、全国十園の自治会からなる全療協(後に全患協、さらに全療協と改称)が誕生することとなった。

以来全療協は、半世紀以上に渡る患者運動の歴史を重ねてきた。その運動の成果が、今日



第一回支部長会議・昭和26年

の療養所の姿を形作ってきたのである。長年運動に関わっている回復者が、「要求のないところに成果はない」と語るように、戦後国が実施した療養所を改善する政策の多くは、全療協の運動が少いにつ引き出してきたものだった。

全療協の歴史を見ることは、つまり戦後日本のハンセン病政策の推移を患者・回復者の側から見ていくことである。運動が日常生活

上の必要に基づいている点で、それぞれの時代その時代に何が課題として患者・回復者の前に立ち上がったのかを知ることで、それらを知るはずである。そして、それらをどのようにして乗り越えてきたのか、どれほどの不安を抱え苦労を払ってきたのかがわかるだろう。

企画展開催の目的は、今日ある

全国国立療養所の資料調査 三カ所目は駿河療養所

前号で松丘保養園と星塚敬愛園での資料調査について掲載したが、1月から3月にかけては、駿河療養所に学芸員の黒尾和久・稲葉上道・西浦直子が訪問し実物資料の実測・撮影、リスト作成を行った。

まず1月18日から21日にかけて、福祉室においてプレ巡回展を行うと共に、対象となる資料についてご案内するパンフレットを配布した。また自治会、福祉室の皆様からは関連の情報を積極的に所内で収集していただき、旧木工所や作業小屋、空居室等に保管されている資料群などについてご案内いただいた。入所者の皆様からも、貴重な資料が寄せられた。

それをふまえて、2月21日から25日、および3月15・16日にかけて、同所内ふれあいセンター3階にこれらの資料を搬入し、調査を行った。空居室からはデモ行進に使われた手作りのゼッケンや全療協駿河支部の旗など駿河会の資料、甚盤や綴帳など開基会関連資料、その他多数のレコードや配食用の棚

療養所という場所、全療協という組織が、まさにこうした歴史そのものとして存在するという事実を、改めて広く知ってもらうことだ。そこから関わり方とその深度を、各自が考えてくれることを期待したい。以後、秋季企画展の会期が終わるまでの3回、この展示について記してみたい。

などを収集した。また木工所と作業小屋からはかつて作業部で使われていた木工・金工、農作業の道具などを多数収集した。資料項目数は513にのぼった。これらの資料は実測・撮影、タグの添付を行い、箱に整理してふれあいセンター3階に保管してある。

今回の調査について多大なご協力をいただいた駿河療養所入所者自治会および療養所職員の皆様にも、深く御礼申し上げます。



集まった資料の一部

■伊藤秋夫写真展予告

故・伊藤秋夫さんの写真作品20余点が、奥様のせつ子さんのご厚意により、当館に寄贈されました。駿河療養所に暮らした伊藤秋夫

さんは、ご自宅から間近にみえる富士山を永年にわたり撮影し続けました。伊藤さんによつて、写し取られた四季折々、朝夕の駿河の風景に映える美しい富士の姿は、見る者の心をとらえてはなしません。なぜか懐かしく、幽玄の世界に私たちをいざないます。

資料館では、本年夏季に当館ギャラリーにて、伊藤さんの「富士山」展を予定しています。詳細が決まりましたらホームページ等でご案内いたします。また、寄贈を記念して、作品の一部を新館2階展望ギャラリーにて、近日公開します。是非、ご覧ください。

国立ハンセン病資料館で お知らせメールを発行

国立ハンセン病資料館では皆様にお伝えすべき情報をホームページに随時掲載しておりますが、内容の更新が不定期であり、ホームページにアクセスしない限り更新された事がわからないという不便さがありました。

この不便を解消するため、ご希望の方にメールアドレスを登録していただき、ホームページの更新をおこなった際に登録者に対して更新内容を通知する「お知らせメール」サービスを四月から開始します。

国立ハンセン病資料館の最新情報を確実に受け取る手段としてどうぞご利用下さい。メールアドレスの登録は国立ハンセン病資料館ホームページから願います。

東北地方太平洋沖地震と東京電力福島第一原子力発電所の連続事故による死亡者、被災者、避難者に対し心よりお悔みとお見舞いを申し上げます。

3月11日(金) 14時46分、東北関東地方にマグニチュード9、震度7の史上4番目といわれる大地震が発生し、10メートルを越す大津波に家も車も人も流れ、死亡者、行方不明者は2万7千人を超えるといわれております。

福島第一原発の1号機から4号機までの連続事故で、住民は放射能汚染から逃れるため半径30キロ圏外へ避難するなど、地震被災者と合すると35万人以上が学校、公民館等2千数百カ所へ避難しております。被災地、避難者への支援と復旧を心より願っております。

市民学会第七回総会・交流集会 五月に沖縄名護・宮古島で

二〇一一年ハンセン病市民学会
第七回総会・交流集会が、5月20
日(金)より23日(月)まで沖縄
県の名護、宮古島で開催されます。

主催はハンセン病市民学会、共催
は名護・宮古島開催地実行委員会、
後援は沖縄県、沖縄県教育委員会、
沖縄県人権協会、名護市、宮古島市、
石垣市、竹富町、沖縄愛楽園、宮
古南静園、両園入所者自治会、沖
縄ゆな協会、沖縄タイムス、琉
球新報、県内マスコミ各社等。

大会スケジュール

5月20日・宮古集会(会場宮古南
静園)、14時開会式、宮古交流集
会「ハンセン病と戦争を考える」
18時〜20時交流の夕べ。



資料館で大谷藤郎 先生を偲ぶ会

5月21日・第1日(会場名護市民
会館大ホール)14時開会、開会式
第1部市民学会総会、15時〜18時
全大会第1部・ハンセン病回復者
のいま 第2部、いま、ぬけだそ
う！―手をつなぎ共に生きる社会
へ―、18時30分、國賠訴訟10周年
レセプション

5月22日・第2日(会場沖縄愛楽
園)園内ワールドワーク・5回
9時・分科会A「ハンセン病療養
所退所者をめぐる問題」、分科会B
「療養所の将来と地域医療」、分科
会C「啓発のあり方を問う」、分
科会D「國賠訴訟の意義と今後の
課題」、13時〜特別企画「これか
らの当事者運動―全療協60年のあ

国立ハンセン病資料館名誉館長
である大谷藤郎先生が、昨年12月
7日埼玉病院で逝去され、12月12
日には青山斎場で大谷家、国際医
療福祉大学の合同葬が行われまし
た。また今年の2月18日には法曹
会館で元厚労省関係者などで「大
谷藤郎先生を偲ぶ会」が開催され
ました。

当資料館では藤楓協会の理事長
であられた大谷先生が、一九九三
(平成5)年、高松宮記念ハンセ
ン病資料館を設立された業績を偲
び、当時の資料館、入所者などの

平成23年度各園 資料調査予定

ゆみに学ぶ、個別研究発表、青年
学生、家族、教育、宗教部会
23日・オブション1・西表島ツ
ア、オブション2・沖縄本島中
北部(基地)フィールドワークなど
も沢山な内容です。年々参加者
もふえる傾向で、今年も総会、交
流集会などの盛会が予測されます。

全国の国立療養
所を対象とした資
料調査は、今年
度、三カ年計画の
二年目を迎える。
昨年度は松丘保養
園・星塚敬愛園・
駿河療養所で実施
し、いずれも園と
自治会から、多大
な協力をいただ
いた。あらためて
感謝を申し上げた
い。

関係者でささやかな「大谷藤郎先
生を偲ぶ会」を次のごとく開催す
ることにしました。

期日 4月16日(土) 13時30分
場所 資料館映像ホール

内容は①館長挨拶・成田稔 ②
来賓挨拶・紀井國献三 ③スライ
ド上映・説明 平沢保治・佐川修
④閉会挨拶・大谷すみれ 司会・
黒尾和久学芸課長

全体で一時間程の予定です。前
列50席程は関係者ですが、後列
一〇〇席は一般の方に開放致しま
す。

昨年度の調査では、まず事前の
巡回展で私たちが何を資料と考え
ているのかPRした。展示を観て
直接イメージしていただくことが
目的だった。そのせいか、「こんな
ものがある」と資料を持ってきて
くださった、拝見しに部屋に
お招きいただくことも多かった。

また本調査を一カ月後にしたの
は、その間に思い出したことが増
えるのではと考えたからだ。実際、
自治会や福祉室などにお申し出が
あり、私たちが再び訪れた時には、
ありがたいことに情報ばかりか資
料が増えていたこともあった。
本調査では一〜二週間滞在し、

写真展「みちのり」

旧ハンセン病図書館・山下道輔氏

東村山市の国立療養所多磨全生
園に、一九六九(昭和44)年入所
者自治会が、全生園創立六十周年
記念として設立した「ハンセン病
図書館」がある。

山下氏は図書館設立とともに、
失われかけていたハンセン病関係
の資料、文献収集の任にあたる。

やがて山下氏の努力と全国の国
立、私立療養所の皆さんの熱意が
実を結び、散逸しかけた資料が集
められていった。そして二〇〇八
(平成20)年3月、利用者に惜し
まれつつも元ハンセン病図書館は
閉館された。

展示作品は山下氏のほんの数
年の記録ですが、この写真から何
かを感じとってほしいのです。そ

資料の名称、大きさ、重さ、謂わ
れなどのデータを取り、写真撮影
を行った。各園三百〜五百点の資
料が集まった。

今年度は邑久、長島、宮古、沖縄、
奄美の五カ所を予定し、学芸員が
二人お邪魔する。近々ご連絡申し
上げ、最終的な日程を確定したい。
各園のご協力をお願い致します。

調査予定時期(上 巡回展/下
本調査)・邑久光明園(5月下
旬/6月下旬)・長島愛生園(5
月末/7月上旬)・宮古南静園
(10月中旬/11月下旬)・沖縄愛楽
園(10月下旬/11月末)・奄美和
光園(1月中旬/2月中旬)

してこんな近い所に私たちとかけ
離れた人生を辿った人たちがいた
のです。(撮影、展示・黒崎彰)

会期・3月26日〜4月10日
会場・資料館一階ギャラリー

出品点数 20点

撮影期間 二〇〇二(平成14)
年より二〇一〇(平成22)年

あとがき

この度の大地震、福島第一原発
の事故は日本だけでなく世界中の
大関心事だ。それにしても「東北
地方太平洋沖地震」「東北関東大震
災」「東日本大震災」と、テレビ
新聞など、マスコミの報道テーマ
がまちならだ。どれもわかるが後
世への記録として統一を期待する。